

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02928

研究課題名(和文) 自己発見型学習やPBLのためのドイツ語初中級者向けプロジェクト課題データベース

研究課題名(英文) Task database for explorative and project-based learning for elementary and intermediate level German learners

研究代表者

岩崎 克己 (Iwasaki, Katsumi)

広島大学・外国語教育研究センター・教授

研究者番号：70232650

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではドイツ語初中級者向けのプロジェクト型学習を支援するための環境を構築した。具体的には、そのために利用可能な言語素材(293件)、応用可能な言語関連ツール(82件)、およびドイツ語学習プロジェクトリスト(28件)をまとめ、広くアクセスできるようネット上で公開した。特にドイツ語学習プロジェクトに関しては、プロジェクト遂行に要する時間、学習対象、課題と目的の記述を含む計画案、利用したあるいは利用可能なサイトおよびツール、技術的な前提、進行プラン、必要なワークシート類と共に公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、ドイツ語の初中級者でも理解できるような難易度の言語素材と手軽に使える無料の言語関連ツールについてのアクセス情報がまとめられ、またそれらを利用しておこない得る様々なプロジェクト事例がその教案やワークシート等の関連情報と共に提供されている。これにより、日本のドイツ語教育においてこれまで実施が難しかった初中級レベルの学生を対象とした自己発見型学習やプロジェクト学習がより容易に行えるようになった。

研究成果の概要(英文)：In this study, a web-environment which supports project-type learning for German beginners and intermediate-level students has been constructed. At our homepage site, we compiled a wide range of language materials (293 cases), applicable language-related tools (82 cases), and German language learning project proposals (28 cases). In the list of German language learning project proposals, for each plan we provide detailed information: its general purpose, the time required to complete the project, descriptions of the learners, tasks and objectives, the websites and tools used or available, technical assumptions, a progress table, and related worksheets.

研究分野：人文学

キーワード：e-ラーニング コンピュータ支援外国語学習(CALL) 自己発見型学習(EL) プロジェクト型学習(PBL) ドイツ語学習

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

内化と外化のサイクルを通じた深い学習を前提とするアクティブ・ラーニングは、日本の大学における外国語教育においても、自ら調べて課題を解決していく自己発見型学習 (explorative learning、以下 EL と略す) や、作品制作や成果発表を前提とするプロジェクト型学習 (project-based learning、以下 PBL と略す) の形で以前から行われてきた。しかし、多くの場合、それは上級レベルの授業に限られ、学習者の大部分が初中級レベルに属する日本のドイツ語教育においては、そうした事例は非常に少ない。その一つの理由としては、初中級者でも EL や PBL に手軽に使える無料の学習用ツールや適切な難易度の言語素材の入手が困難だったことが挙げられる。英語教育の分野ではこうした状況を改善するため 1990 年代半ば以降、WWW 上に支援環境を構築する Webquest.org 等の試み (岩崎 2010) がなされたことがある。しかし、日本のドイツ語教育の分野においては、そうした試みの先行例はなく、また他の言語教育における数少ない過去の取り組みにおいても、時間を経る中で情報のリンク切れを起こしたり、技術的に陳腐化したりして、今日の素材や学習ツールが持つ新しい技術の応用可能性を生かし切れていないという状況であった。

しかし、その一方で、使い方次第では、ドイツ語の初中級者でも EL や PBL に利用可能な様々な内容と難易度の言語素材 (テキスト、単語集、音声、静止画、動画等) を含むサイトは多数存在し、また WWW 上で提供されている広い意味でのドイツ語学習用ツール (音声認識エンジン、音声読み上げソフト、オンライン辞書、コーパス検索ソフト、翻訳メモリ、各種情報検索ソフト、SNS、学習管理システム等) の中でも、無料で使えるものが多い。そこで、研究代表者は、これらの情報を相互に関連づけた学習課題データベースを開発し、それをオンライン上で広く社会に公開するならば、ドイツ語学習の分野におけるアクティブ・ラーニングの裾野をより広げることができると考え、本研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、WWW 上で公開されているドイツ語やドイツ語学習用リソースの中から、特に初中級 (CEFR における A2-B1) レベルの日本人ドイツ語学習者が、自己発見型学習やプロジェクト型学習のための素材やツールとして利用可能なものを整理し、それらを使って実施可能なプロジェクトの事例とそれに必要なワークシート等の情報を加えて広くアクセス可能にすることで、ドイツ語学習の分野におけるアクティブ・ラーニングの促進に寄与することであった。特に、音声認識・音声合成・多言語コーパス等を利用することで、言語活動におけるオーセンティックな側面と学習者の自己表現の欲求の双方を考慮すると共に、単なるドイツ語の学習だけでなく、ドイツ語学習の仕方を学ぶための機会や環境を提供することも本研究の眼目であった。

3. 研究の方法

< 初年度 >

計画の初年度である 2017 年度は、まず本研究で用いるドイツ語素材サイトとドイツ語学習用ツールの選定・分類作業を行うとともに、プロジェクト型学習の様々なタイプに関する事例を集めことに努めた。具体的には、ドイツ語の様々な情報サイトの中から、たとえばドイツ人の青少年向けの情報サイト、主要な放送局が提供する青少年用のニュースサイト、青少年用の学習支援サイト、あるいは各種の公共機関等が提供する「やさしいドイツ語」で書かれた情報提供サイトなど、難易度の調整されたドイツ語素材を始め、様々な内容と難易度

の言語素材(テキスト、単語集、音声、静止画、動画等)を含む素材提供サイトをリストアップし、歴史、政治、国際交流、地域研究、学生生活、映画、音楽、ファッション、観光、家族、人間関係、ドイツ語学習等の分野を示す 20 個程度のキーワードを使って分類した。実地調査としては、英語系の発表が主である JALT2018 に参加し、プロジェクト型学習やそのツールの開発/紹介に関連する発表を中心に情報を収集した。また、ドイツ文化センターが国際的に行っているプロジェクト型学習をテーマとしたベルリンでの現職教員用セミナーに参加し、プロジェクト型学習の様々な事例を調査するとともに、ドイツ語圏事情(Landeskunde)の領域におけるプロジェクトを WWW を利用することで日本国内にいながら効果的に行う可能性を検討した。また、オンライン上で無料で使えるフリーソフトの中から、音声認識エンジン、音声読み上げソフト、オンライン辞書、コーパス検索ソフト、翻訳メモリ、学習管理システム等々の EL(自己発見型学習)や PBL(プロジェクト型学習)用のツールとして使いそうなものを各分野ごとに抽出・分類した。

< 2 年目の年度 >

2018 年度は、前年度の研究を通じて作成したドイツ語学習用リソース一覧とドイツ語学習応用可能ソフト一覧を踏まえ、プロジェクト課題データベースのひな形を作成するとともに、必要なワークシート類や教員用の指導マニュアルの作成を試みた。具体的には

1)「スピーキングとリスニング」、「ライティングと文法」、「リーディングと語彙」という異なる技能分野を対にした 3 つの領域を設定し、リサーチ課題やプロジェクト課題をそれぞれの領域ごとに整理・分類し、目標としてのリサーチ課題集やプロジェクト課題集のひな形を作った。また、個々の課題を実現するための、EL(自己発見型学習)や PBL(プロジェクト型学習)を支援する教員向けの指導マニュアルの開発を試みた。

2)最終目標としてのリサーチやプロジェクト課題を実現するための下位の課題を整理し、それらの解決をサポートするワークシート群の構成を考えるとともに、それぞれの EL や PBL を実施するための参考情報をまとめた。

3)目標としてのリサーチやプロジェクト課題集を、コアとなる素材の提供サイト、学習用ツール、領域、学習目的、個々の目標としての下位の課題、ワークシート、難易度、課題達成に要する時間(目安)等の指標とともに登録したプロジェクト課題リストを作成した。

< 最終年度 >

計画の最終年度である 2019 年度には、それまでの使用経験を通じ、前年度までに作成したドイツ語学習用リソース一覧およびドイツ語学習応用可能ソフト一覧の項目の全面的な見直しを行った。また、2018 年度に作成したプロジェクト課題リストの拡張も行った。そのうえで、それらを利用した EL(自己発見型学習)や PBL(プロジェクト型学習)を、研究代表者が中心となって実験的な形で行った。これらの結果は論文等の形で公表するとともに、ドイツ語初中級者向けに利用可能な言語素材(293 件)、ドイツ語学習に応用可能な言語関連ツール(82 件)、ドイツ語学習プロジェクト(28 件)の 3 つに分け、広くアクセスできるようネット上で公開した。特にドイツ語学習プロジェクトに関しては、プロジェクト遂行に要する時間、学習対象、課題と目的の記述を含む計画案、利用したあるいは利用可能なサイトおよびツール、技術的な前提、進行プラン、必要なワークシート類と共に公開することで、これらを目安とした同一あるいは同種のプロジェクトを実際に行うことができるよう配慮した。

4. 研究成果

プロジェクト型学習の課題例を教案の形でまとめるとともに、そのために必要な言語素材と言語ツールを関連付けて提示することで、ドイツ語初・中級学習者を対象としたプロジェクト型学習支援環境を整備した。研究成果の全体像は、以下のサイトにまとめた。

ドイツ語初中級者向けに利用可能な言語素材

https://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/call_list01.htm (2019.11.30 最終確認)

ドイツ語学習に応用可能な言語関連ツール

https://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/call_list02.htm (2019.11.30 最終確認)

上記を利用したドイツ語学習プロジェクト例

https://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/call_list03.htm (2019.11.30 最終確認)

紙幅の関係で、ここでは、上記に挙げた 28 のプロジェクト事例のうち 1 つだけ選んで示すことにする。

事例 1 「ドイツ人旅行者のための観光案内：西条編を作ろう！」(課題番号 7)

・プロジェクト遂行に要する時間

毎回の授業の後半 30 分を 4 回程度あて、計 120 分程度。

・対象者と実施時期

週 2 回 1 年間ドイツ語を学習する大学 1 年生、後期の後半冬休み明け頃から実施可能。

・計画案

課題： 2~3 人のグループで、漫画コマ割り作成用のアプリ等を利用し、1 ヶ月後を目処に、地元西条（広島大学が位置する広島県東広島市西条地区）に短期間滞在するドイツ人のための A4 にして 2~4 ページほどのカラーの観光案内ガイドを作り、配布・公開する。

目的： 1) 日本語で自ら調べて知った新たな知識を、適切な画像とともに、簡潔なドイツ語にまとめ、
 標題を付ける (A2 レベルの writing)

2) 読み手がドイツ人であることに配慮し、日本人とドイツ人の前提知識の違いを意識した情報
 伝達を考える。

3) 自分達の住んでいる町を外からの視点で見直す。

・利用可能なサイトおよびツール

学生：日本語圏の自治体や各種観光情報のサイト、ドイツ語圏の同種のサイト、Glosbe・Reverso Dictionary・Wadoku などのオンライン辞書各種、漫画コマ割り作成用のアプリ Strip Designer、Word、QR コード無料作成用ページなど。教員：特になし。

・技術的な前提

プロジェクト説明用の PowerPoint プレゼンテーションのできる環境があれば望ましい。

・進行プラン

準備 通常の授業を通して休暇旅行や交通手段に関するやり取りを含むテーマを扱い、関連する動詞を学習しておく。広島の観光案内や西条の駅前の観光案内パンフレット等があれば、教員も自ら集めるとともに、参加者にもあらかじめ集めるよう指示を出す。

第 1 回：2~3 人のグループを作る。旅行ガイドの読み手（年齢、滞在期間、季節、滞在目的：ホームステイの高校生、酒造りに興味のあるドイツ人、家族連れの旅行者、熟年夫婦等）を想定し、それに合わせた旅行・滞在プランのテーマ考え、観光案内ガイドにその特徴を示す名前を付ける。

例：「西条グルメガイドトップテン (TOP 10: Die besten Gourmet-Restaurants in Saijo)」、「お酒飲

みのための観光案内 (Ein Reiseführer für Sakeliebhaber)」、
「意外と知らない西条の穴場スポット：自然編 (Wenig bekannte Ausflugsziele in Saijo: Naturattraktionen)」等。授業時間内に決まらなければ、お互いに連絡を取り、次回までに決める。

第2回：各グループに分かれ、自分のたちの決めたテーマを基に、西条の観光に関連して取り上げるべき個々のトピックについて調べる。なお、個々のトピックを検討している中で別のアイデアが出てきた場合などは、全体テーマを変えることも可とする。

トピックの例。

Sake-Brauereien-Straße(酒蔵通り) Universität Hiroshima(広島大学) Kunst- und Kulturhalle Kurara (コンサートホールくらら) Buddhistische Tempel und Shintō-Schreine in Higashi-Hiroshima (東広島市の神社仏閣) Historische Stadtviertel in Shiraichi (白市の旧市街) Mitsujo-Hügelgräber (三ツ城古墳) Sengoku-Daimyō (Kriegsfürst) Mōri Motonari (戦国大名 毛利元就) Azumako-Wasserfall (吾妻子の滝) Lila Glyzinien Spalieran um die Minaga-Wasserquelle(三永水源地の藤棚) Miyama-Schlucht(深山峡) Koi-no-Mori Park(憩いの森公園) Kagamiyama-Park(鏡山公園) Higashi-Hiroshima-Sportpark (東広島運動公園) Kurose-Talsperre (黒瀬ダム) Taishakukyo-Schlucht (帝釈峡) Erlebnisorientierter Tourismus: Äpfel selbst pflücken, Buchweizennudeln herstellen (体験観光：りんご園、そば打ち) Städtisches Museum Higashi-Hiroshima (東広島市立博物館) Städtische Bibliothek Higashi-Hiroshima (東広島市立図書館) Stadtrat Higashi-Hiroshima für Förderung Internationalen Austauschs (東広島市国際化推進協議会) Living Information (外国人のための生活情報) <http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/kurashi/sumai/4/index.html>

der öffentliche Verkehr in Higashi-Hiroshima (東広島市の公共交通)

<http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/soshiki/seisakukikaku/3/1/18982.html>

第2回～第3回：全体テーマの下に、個々のトピックを選び、トピックごとに数行の文章と短い標題を考え、手書き画像あるいは写真をもとに漫画作成用のアプリ Strip Designer を使って、コマ割りしていく。

第3回：この回の最後の方で、隣のグループとの交流時間を10分ほど設け、そこで自分達のアイデアをお互いに説明し、他のグループからの質問やアドバイスをもらい、適宜改善を図る。

第4回：印刷版を完成するとともにPDF化する。また、掲載する個々の情報のURLと作成する観光案内ガイド自体のURLに簡単にアクセスできるよう、WWW上のQRコード無料作成ページを使って、すべての記事の末尾と作成中のガイドの冒頭にアクセス用QRコードを貼り付けるとともに、末尾にfeedback用のURLやメールアドレスのQRコードを付ける。また、紹介した場所に関する既存の(観光)ページ等がある場合にはそれらにもリンクを貼る。

一定の水準に達しているガイドは、実際に大学の国際交流ラウンジ等に置いてもらうとともに、全グループのPDFファイルをまとめたフライヤーを作り、学内に掲示する。

参加者全員に投票の形で、一番良いと思われる作品を選んでもらう。

・ポイント

- 1) 内容面では、誰もが知っていること(だけ)ではなく、これを読んだことで新たに何かを伝えられるような新情報についてきちんと調べて書くことを強調する。読み手の存在を意識化させることが重要。地元や特定の都市のディープな旅行者向け案内記事を企画して書くことを目標とすると良い。
- 2) 最初に、前年度の作品をモデルとして提示することができればいい。
- 3) 同じ形式で広島市や広島県内のローカルな地域(竹原、呉、福山)を対象にした同種のプロジェクトも実施可能。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Katsumi Iwasaki	4. 巻 159
2. 論文標題 Wortschatztest zu 100 Grundverben an einer Universitaet in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neue Beitræge zur Germanistik	6. 最初と最後の頁 142-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.iudicium.de/katalog/86205-324.htm	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 岩崎克己	4. 巻 23
2. 論文標題 ドイツ語初級者を対象としたプロジェクト型学習と情報メディア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 63-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/48749	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 吉満たか子	4. 巻 23
2. 論文標題 ドイツの移民・難民対象のオリエンテーションコースのカリキュラムと教科書に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 95-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/48750	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Axel Harting	4. 巻 23
2. 論文標題 Eignung sozialer Netzwerke fuer das Deutschlernen in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 229-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/48760	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉満たか子	4. 巻 22
2. 論文標題 ドイツの移民・難民を対象とする統合コースの基本理念と現実	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 29-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/47081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harting, A.	4. 巻 1
2. 論文標題 Japanese Students' Attitudes Towards Using SNSs for Learning German	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JALT Postconference Publication 2017	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://jalt-publications.org/articles/24275-japanese-students%E2%80%99-attitudes-towards-using-sns-learning-german	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harting, A.	4. 巻 157
2. 論文標題 Schwierigkeiten bei der Bewaeltigung von Facebook-Aufgaben im Deutschunterricht in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neue Beitrage zur Germanistik	6. 最初と最後の頁 155-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.iudicium.de/katalog/86205-323.htm	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harting, A.	4. 巻 22
2. 論文標題 Nutzung der Zielsprache ueber Facebook von Deutsch- und Japanischlernenden	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hiroshima Studies in Language and Language Education	6. 最初と最後の頁 133-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/47088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩崎克己	4. 巻 27
2. 論文標題 WWW上のフリーソフトを利用したドイツ語の数詞の練習	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ドイツ語情報処理研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://130.34.131.66/sugiura/DDJ/DDJ_Archiv/ddj27.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉満たか子	4. 巻 21
2. 論文標題 映画を使用した中級ドイツ語授業の実践例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 199-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/45310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Axel harting	4. 巻 -
2. 論文標題 Use(s) of the L1 in L2 German Collaborative Tasks	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jalt Proceedings, 2017	6. 最初と最後の頁 220-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://jalt-publications.org/node/4/articles/6042-uses-l1-l2-german-collaborative-tasks	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Axel harting	4. 巻 154
2. 論文標題 Verwendung der L1 in aufgabenorientierter Partnerarbeit	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Neue Beitræge zur Germanistik	6. 最初と最後の頁 232-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11282/jgg.154.0_232	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Axel harting	4. 巻 21
2. 論文標題 Vermittlung sozio-pragmatischer Faehigkeiten in der Zielsprache mithilfe sozialer Netzwerke	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 187-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.15027/45309	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計16件(うち招待講演 2件/うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Axel Harting
2. 発表標題 Nutzung der Zielsprache ueber Facebook von Deutsch- und Japanischlernenden
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会(学習院大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Axel Harting
2. 発表標題 Language exchanges on Facebook: Learners of L2 German and Japanese comment on the usefulness of Facebook for L2 learning
3. 学会等名 EUROCALL 2019(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩崎克己
2. 発表標題 様々なメディアとICTの導入 -ドイツ語教育におけるCALL-(第1回)
3. 学会等名 日本独文学会 ドイツ語教員養成・研修講座 Module 5(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩崎克己
2. 発表標題 様々なメディアとICTの導入 –ドイツ語教育におけるCALL– (第2回)
3. 学会等名 日本独文学会 ドイツ語教員養成・研修講座 Module 5 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉満たか子
2. 発表標題 トライリンガル養成特定プログラムについて
3. 学会等名 第66回中国・四国地区大学教育研究会 (鳥取大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Harting, A.
2. 発表標題 Developing L2 socio-pragmatic competence through blended learning involving SNS
3. 学会等名 8th International symposium on intercultural, cognitive and social pragmatics, University of Seville (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Harting, A.
2. 発表標題 Schwierigkeiten beim Einsatz sozialer Medien im japanischen Deutschunterricht fuer Anfaenger
3. 学会等名 Fruehjahrstagung der JGG, Waseda University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Harting, A.
2. 発表標題 Developing L2 socio-pragmatic competence through blended learning involving SNS
3. 学会等名 Second International Conference on Sociolinguistics, Eoetvoes Lorand University Budapest (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Harting, A.
2. 発表標題 Schwierigkeiten beim Einsatz sozialer Medien im Deutschunterricht fuer Anfaenger
3. 学会等名 44. JALT International Conference (Shizuoka) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Katsumi Iwasaki
2. 発表標題 A Vocabulary Survey Test in German Classes
3. 学会等名 A preview of the JALT2017 International Conference.
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Katsumi Iwasaki
2. 発表標題 A Vocabulary Survey Test in German Classes
3. 学会等名 43. JALT International Conference 2017. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉満たか子
2. 発表標題 トライリンガル養成特定プログラムの開始
3. 学会等名 平成29年度 外国語教育研究センター教育実践研究報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Axel Harting
2. 発表標題 Vermittlung sozio-pragmatischer Faehigkeiten in der Zielsprache durch integriertes Lernen
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会 (日本大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Axel Harting
2. 発表標題 Funktionen der L1 in aufgaben-orientierter Partnerarbeit
3. 学会等名 Die 16. Internationale Tagung der Deutschlehrerinnen und Deutschlehrer. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Axel Harting
2. 発表標題 Using Facebook to improve students' L2 German skills in socio-pragmatics
3. 学会等名 15th International Pragmatics Conference. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Axel Harting
2. 発表標題 Vermittlung sozio-pragmatischer Faehigkeiten in der Zielsprache durch Facebook
3. 学会等名 JALT International Conference 2017. (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 田中 雅敏、筒井 友弥、橋本 将	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 学際的科学としての言語学研究	

1. 著者名 吉満たか子、板山真由美、塩路ウルズラ、本河裕子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 152
3. 書名 自己表現のためのドイツ語1 プラス	

1. 著者名 吉満たか子、板山真由美、塩路ウルズラ、本河裕子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 120
3. 書名 自己表現のためのドイツ語2 プラス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ドイツ語初中級者向けに利用可能な言語素材 https://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/call_list01.htm</p> <p>ドイツ語学習に応用可能な言語関連ツール https://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/call_list02.htm</p> <p>上記を利用したドイツ語学習プロジェクト例 https://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/call_list03.htm</p> <p>数詞の練習サイト（スマホ対応版） http://lang.hiroshima-u.ac.jp/ttn/main http://lang.hiroshima-u.ac.jp/ttn1000/</p> <p>ドイツ語オンライン自動採点ドリル DGS（スマホ対応版） https://lang.hiroshima-u.ac.jp/dgsgs/</p> <p>サットと独作446題（サットと英作を利用したドイツ語作文と質疑応答の自由課題） http://etc1.gyuto-e.jp/select.php</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉満 たか子 (Yoshimitsu Takako) (20403511)	広島大学・外国語教育研究センター・准教授 (15401)	
研究分担者	HARTING AXEL (Harting Axel) (80403509)	広島大学・外国語教育研究センター・准教授 (15401)	